

令和3年度 大阪府立桜塚高等学校 第3回 学校運営協議会

日時 令和4年2月25日（金）14時30分より

場所 会議室

出席者 校長

委員 武庫川女子大学教授、豊中3中校長、豊中市地域教育協議会会長
岡町・桜塚商業団体連合会会長、大阪府立桜塚高等学校 PTA 会長、
尚和会会長、

事務局 教頭、事務部長、首席、指導教諭、教務主任、保健部長
生徒指導主事、自治会部長、進路指導主事、情報部長、書記

内容

司会 教頭

1 会長、校長 挨拶

会長 意義のある協議会になるようにしたい。

校長 今年度はコロナウィルス感染症対策で、第1回・第2回は書面での開催となったが、
その中でも貴重な意見をいただいた。

2 委員自己紹介及び事務局自己紹介

司会 会長

3 報告

令和3年度学校評価について （資料1，2，3）

・学校教育自己診断の結果について

多くの項目の肯定率が前年度を上回り、全項目の肯定率が8割を超えた。

「地域」に関する項目は、コロナ禍で行事がなくなったことにより、評価が上がらなかったと思われる。しかし、大槌高校との交流をオンラインで行うなど、今年から取り組むようになったこともあった。

「公立校としての魅力」をどのように伝えていくかが今後の課題。私学と比べた際に魅力となるような「教育の特徴」の提示などが必要だと思われる。

また、生徒への教育の充実はもちろんだが、それを実現しつつも教員の勤務のスリム化について考えていくことも必要。

- Q 高ストレス者が7名、残業時間が80時間を超える教員が1名いるが、何か対策はあるのか。
- A 高ストレス者の割合は平均でみると全国平均（100）を下回っている（桜塚高校は95）。そのため、業務の平準化を進め、一部の教員に業務の負担がかからないようにしていく。また、部活動の外部講師活用やスクールカウンセラー活用など、外部の専門家と協力していく。

Q 部活動指導者の活用実績は？

A 今年度は文化部 2 クラブ・運動部 3 クラブが活用。

(意見) 残業代が 4% がついているが、公立校の教員はそれ以上の残業をしているのが実情。今後、実態に見合った形（時間ごとの残業代の支給など）になるはずではある。現場でできることは少ないが、対策などを考える必要はあるし、管理職には上に働きかけを行ってほしい。また、地域にもそのような実情を伝えていくべき。

(意見) グローバルリーダーの育成のなかで、「英語力の育成」をあげているが、今の時代、言語に関してはポケトークなどの翻訳機で対応できることが多い。そのため、環境問題や国際問題について知ることからはじめ、グローバル社会で「生き抜く」方法を伝えてほしい。

(意見) コロナ禍で特に生徒と地域の関係が途切れている。教員の転勤や生徒の卒業などにより、これまで一緒に行ってきたものが引き継がれなくなるのではないかと心配している。

(意見) 異文化を知るには自国の文化を知ることが必要。そのため、高校で自国の文化を知らせる機会があるといいのではないかと思う。そのための財産（戦時中や戦後の取り組みの記録など）が桜塚高校にはあるので、それを活用してほしい。

(補足) 50 周年記念誌に載っている「ほむらの像の説明」を来年度発行の「同窓会の会報」に抜粋して掲載する予定。

4 協議

令和 4 年度学校経営計画について（資料 4）

- ・ 中期的目標の承認をいただきたい。
- ・ 大きな変更は特にはないが、変更点は（資料 4-2）にまとめている。
「学習動画」の記述を、昨年度までの「進路指導」にかかわる部分ではなく、「教育産業と連携した講習」の部分に紐づけた。
来年度から「GSC」に一本化する「専門コース」についての記載を、それに合わせた表現に変更した。
- ・ 数値目標に関しては、今年度上昇した数値を維持することを目標とする。
- ・ 全員受験ではなくなるため、実用英語技能検定の成果指標の記載を合格率から「〇人以上合格」に変更した。
- ・ 来年度はアクティブラーニングの中でも「生徒同士の学び合い」を重視する。
- ・ 来年度は「行事」「地域連携」「国際交流」といった、コロナ関係で近年取り組めなかったものに力を入れたい。

(意見) 点数を取ることは大切だが、それだけでは駄目だという認識が大学でも出てきている。「探究」の時間の中で「気づき」を大切にし、わからないことを考えたり、その内容を整理したりする活動をしてほしい。「なぜ学ぶのか」を考えることから、「〇歳の時にどんな生き方をしたいのか」を考えることにつなげ、生徒自身に「学ぶ力」をつける取り組みをしてほしい（教え込むことからの脱却を）。

5 本年度の取り組みについて

1 人1台端末活用の取り組みについて (資料5)

- ・今年度も複数回の研修や相互授業見学を行った。
- ・3年前の導入当初は Wi-Fi の整備や教員の活用能力の差により、なかなか活用が進まなかった。しかし、研修を「全体へのものだけではなく、個々人が知りたい内容を知ることができるもの」にしたり、コロナウィルス感染症への対策のためにオンライン授業や配信を行ったりすることで、活用の機会が増加した。

Q GoogleF for education の導入は大阪府下の全ての高校で行われているのか。

A 桜塚高校は先行して導入していたが、今年度から全域で導入されている。

Q 登校することができない生徒への配信の成果はどうだったか。

本人はちゃんと自宅から参加していたか。

A 欠席した分のフォローはできていたと思われる。

リアルタイムの配信ばかりではなく、動画や教材および解説等の配信などでの対応もあった。

Q 使用料金はかかっているのか。

A ドメインの使用料は払っている。来年度からは大阪府が払うようになる。

地域連携の取り組みについて (資料6)

今年度取り組めたのは今回限りのものばかりになってしまい、コロナウィルス感染症が流行する前までは継続して行っていた行事などが行えていない。生徒間での引継ぎが行えていないことが今後に影響しないか不安である。

(意見) 行事などは一度なくなると再開が難しいため、ノートなどでやり方などを残して途絶えないように工夫してほしい。

7 4期生進路状況について (資料7)

・私学の受験結果が今出てきており、まとめているところ。国公立の結果はこれから。

・「共通テスト結果」について

全国平均と同様に数学の平均点は大きく下がった。

数学以外の教科に関しては、例年と大きな違いはなかった。

・「推薦型選抜の結果」について

生徒自身の頑張りはもちろん、大学の定員厳格化が落ち着いてきたこと、受験者数が増えたこと、などにより合格者数が増加した。そのため、一般選抜の受験者数の減少が危惧されたが、現状では例年くらいの人数になると見込まれる数となっている。

6 その他

新カリの教育課程について (資料8)

・変更点

科目名や時間数。

GSS コースを廃止 (GSC コースに一本化)。

3年連続で希望者が定員を下回っていること・生徒数が減少していること・一年次に「数学Ⅲ・C」といった難しい数学を3年次において選択することを決断しなければならず、希望者が少ないことなどが理由。

一週間の時数を32から31へ変更。

32では、土曜日に授業や考査をしなければ授業時間数がまかなえず、公式戦と重なるなどするため、生徒から不評であることや教員の負担となることもあり、新カリへの変更を機に教科科目の精選と調整をおこなうことによって、発展的解消を図った。

R4年度 桜塾 (ECC英検対策講座) について (資料9)

来年度も今年度と同様に下校時間後に開講。

来年度はECCに委託し、内容は実用英語技能検定の対策が主。

Q 希望者は何人くらいか？

A 来年度分はまだ調査中。例年30名ほど。

その他

・新制服について

女子は細部が変更。男子は詰襟からブレザーに変更。

A・Bタイプと呼ぶことで、多様な生徒に対応できるようにする。

(意見) 自転車のマナーが気になります。

・PTA から

田尻校長に来年度も桜塚高校校長として継続勤務を府に対して要望する陳述書の提出。